



トコブシ日本海・東シナ海
・瀬戸内海系群
令和3年度資源評価結果

生物学的特性

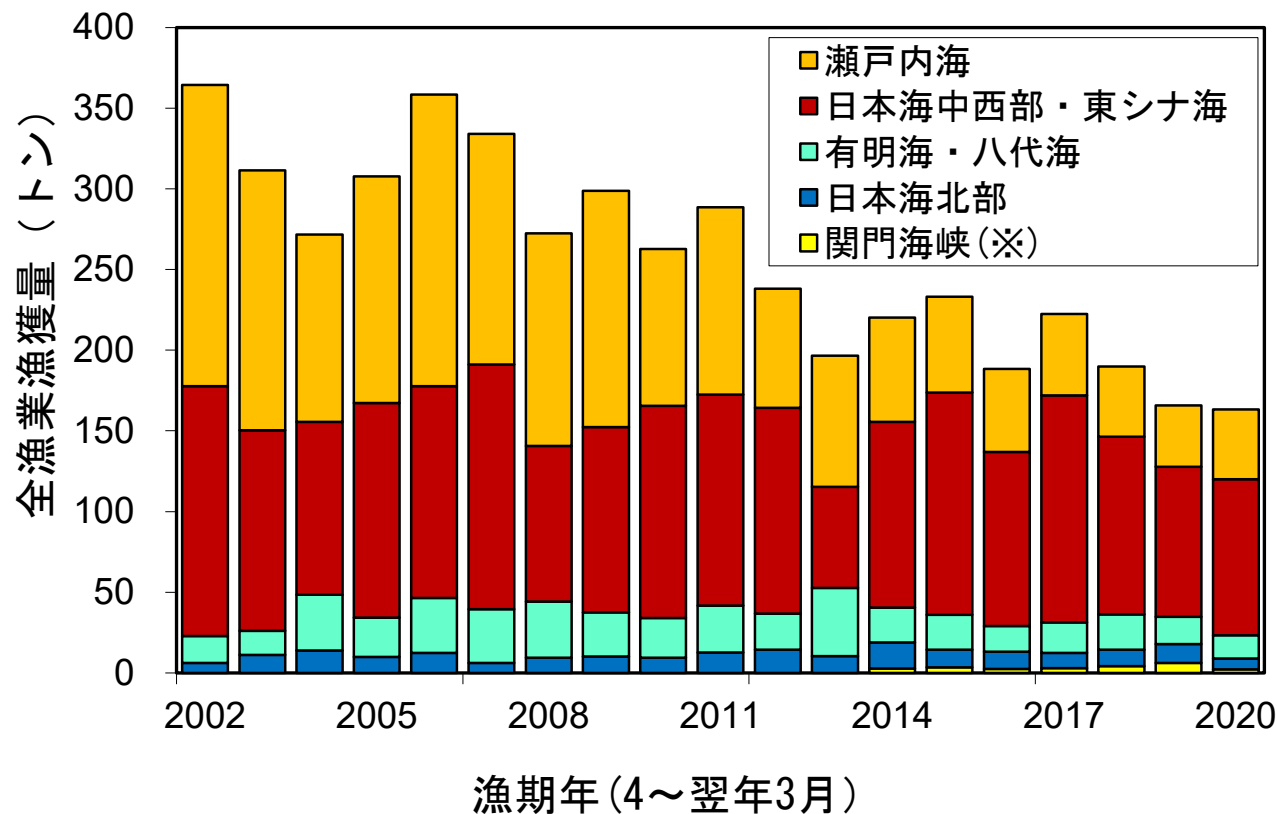


生物学的特性

- 寿命: 10歳以上
- 成熟開始年齢: 雄2歳、雌3歳
- 産卵期・産卵場:
国内では八郎潟周辺、七尾湾、若狭湾、福岡湾、有明海、八代海、関門海峡周辺、布刈瀬戸、備讃瀬戸、など。
- 食性:
仔魚後期までは動物性プランクトン、稚魚は底生性の小型甲殻類、未成魚は魚類幼魚およびエビ・カニ類、成魚は魚類、エビ・カニ類

- 漁期は外海域では主に9月～翌年3月で全年齢が対象のほか、産卵親魚(3月～6月)、当歳魚(7月以降)が主に内湾域、内₂海域で漁獲される

漁獲の動向①

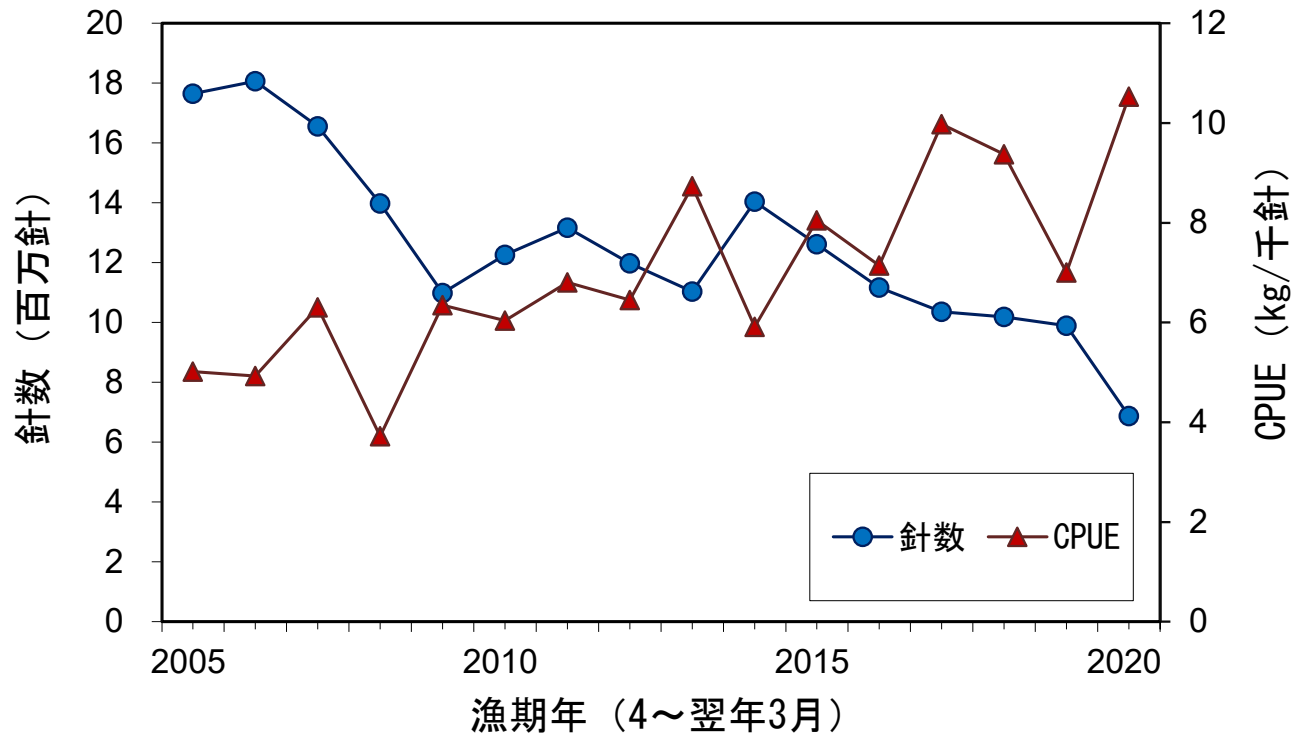


- 2020年漁期 (4月~翌年3月) の漁獲量 : 163トン (概数値)
(2019年漁期 : 166トン)

- 2020年漁期の海域別割合 : 日本海中西部・東シナ海が59%、瀬戸内海が26%、有明海・八代海が9%、日本海北部が4%、関門海峡 (4月~7月) が1%

- 2020年の放流尾数160.8万尾、混入率35.9%、添加効率0.023

漁獲の動向②

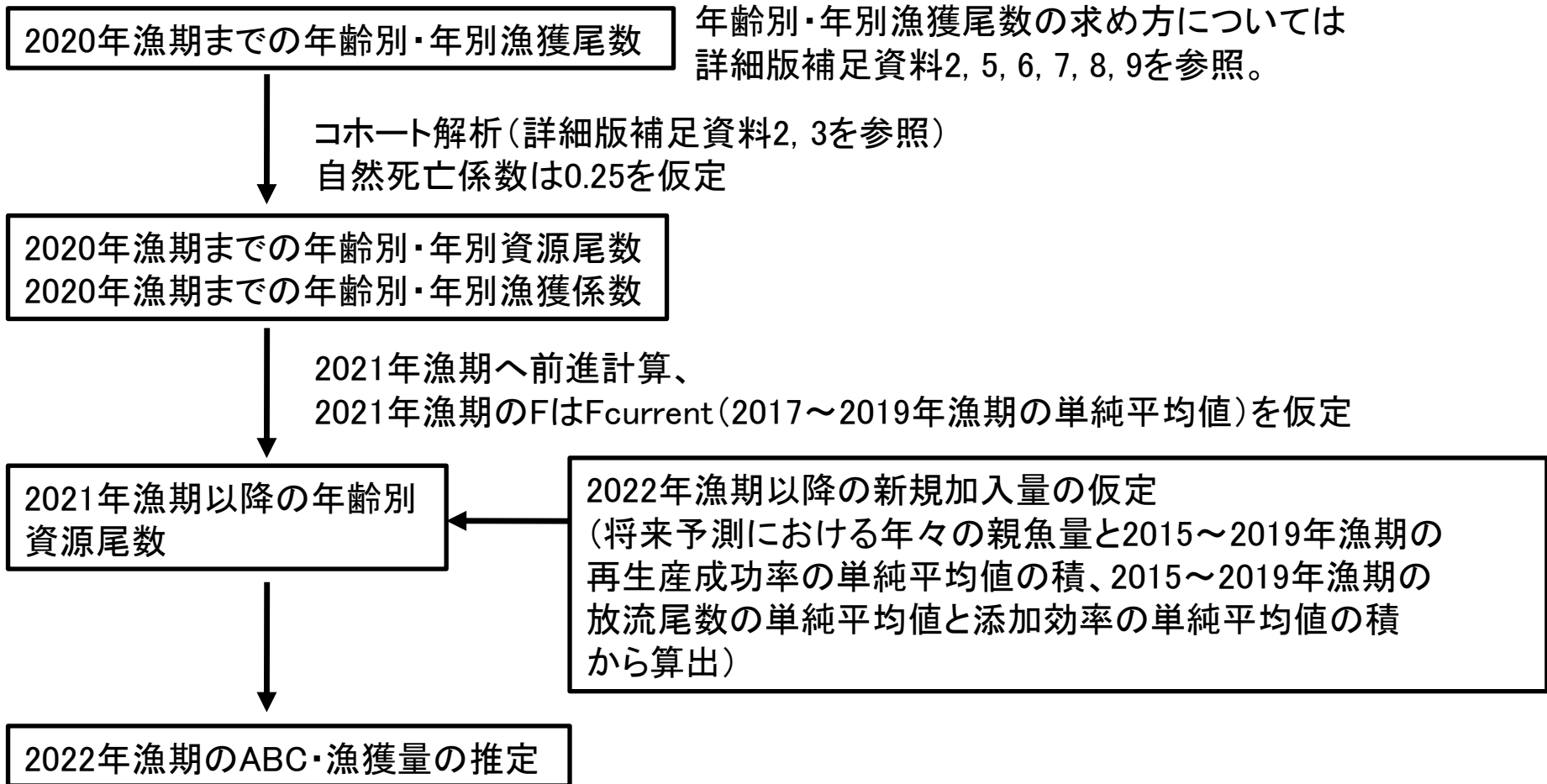


- 主漁場である九州・山口北西海域における、2020年漁期のふぐはえ縄の努力量（針数）は、688万針と過去最少
- 一方、同海域のCPUEは、11kg/千針と過去最高となった

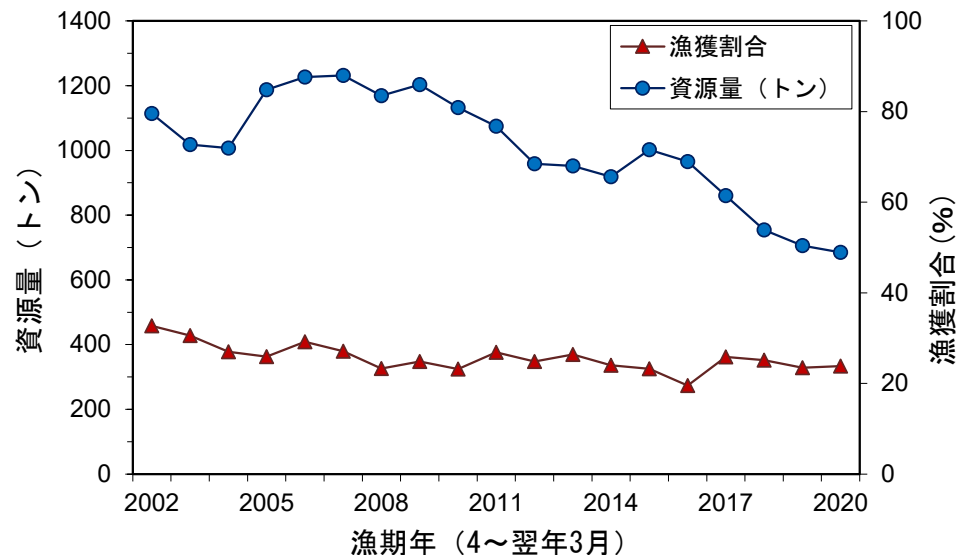
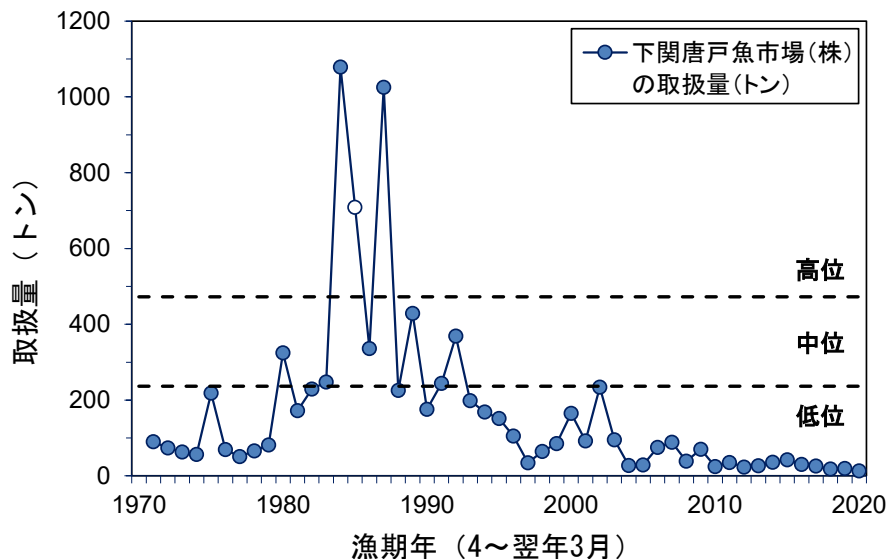
※針数：漁期中の総針数

※CPUE：千針あたりの漁獲量(kg)

資源評価の流れ



資源の動向①

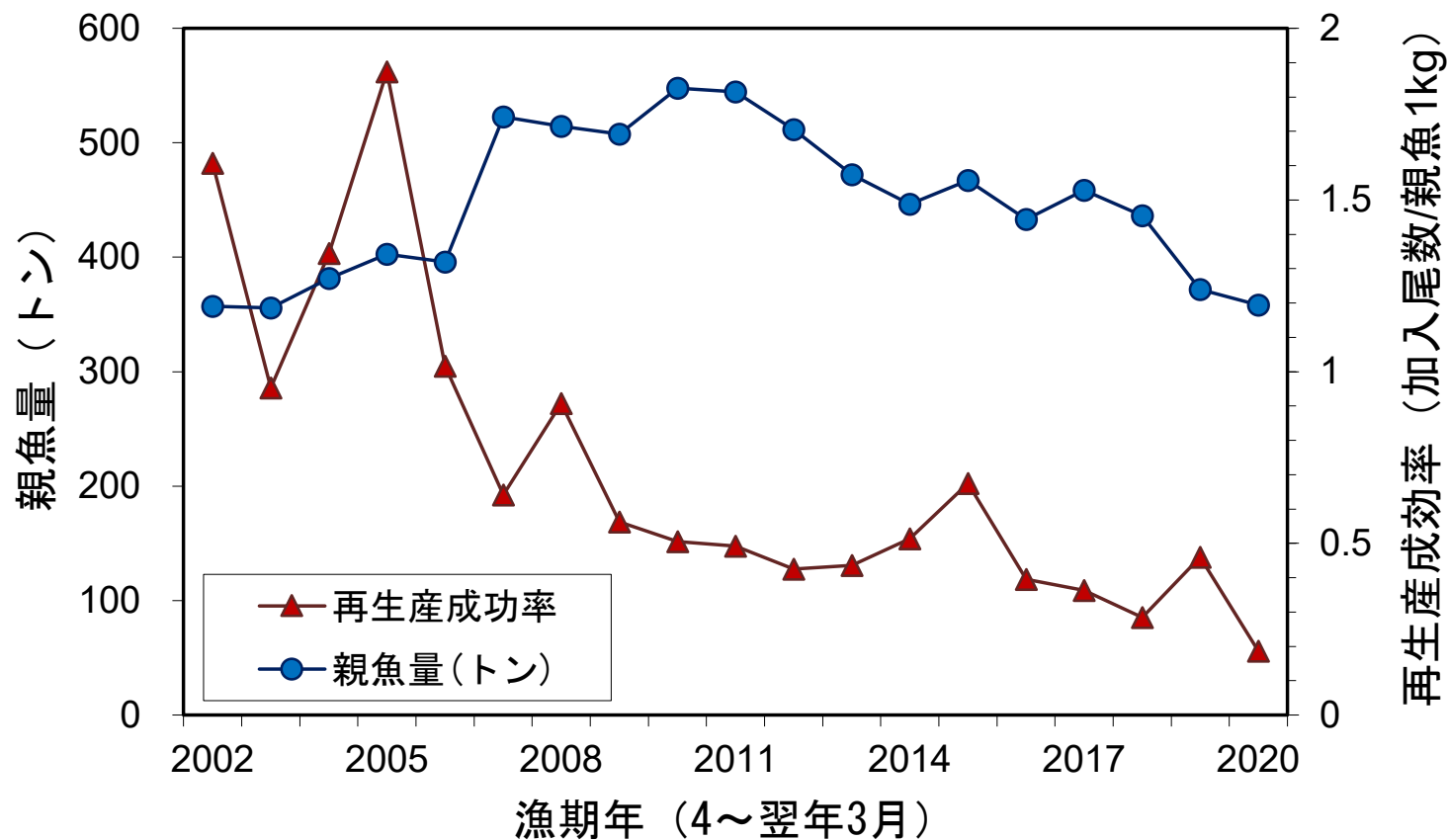


※水準区分 低位／中位：取扱量236トン、中位／高位：取扱量472トン

(本系群では長期的な資源量指標値がないため、下関唐戸魚市場(株)の内海産取扱量によって判断している。ただし、この取扱量は漁獲努力量が考慮されていないため、極端に多い1984年漁期と1987年漁期を除いた0～最大値(709トン：右図白抜き円)で3等分し、高位／中位：472トン、中位／低位：236トン)

- 資源水準：2020年漁期の下関唐戸魚市場(株)の内海産取扱量は13トンで、「低位」
- 資源動向：直近5年間の資源量の推移から「減少」

資源の動向②



- 親魚量：2010年の548トン进行ピークに減少傾向
- 再生産成功率：2005年进行ピークに以降、減少傾向

資源評価のまとめ

- 資源水準は低位、動向は減少
- コホート解析による資源量に基づいて資源状態を判断

2022年漁期ABC

管理基準	Target/Limit	2022年漁期ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
0.50F _{current}	Target	57	11	0.12 (-60%)
	Limit	70	13	0.15 (-50%)

- 0.50 : 現状の漁獲圧に対して、2027年漁期の資源量が管理目標*まで回復するために削減する漁獲圧の割合
 - F_{current} : 2020年漁期の漁獲圧 (各年齢の単純平均)
- * 本系群の管理目標は2027年漁期までに資源量840トンまで回復